

# 2009年3月期 決算説明会

## プラマテルズ 株式会社

(証券コード 2714)

- 
- I. 2009年3月期連結決算概要
  - II. 市場動向
  - III. 金融危機時の経営戦略
  - IV. 2010年3月期連結決算予想

## I . 2009年3月期 連結決算概要

1. 2009年3月期 連結決算
2. 取扱商材別連結売上高増減
3. 販売先業界別売上高構成比(単体)
4. 連結営業利益の変動要因
5. 連結貸借対照表
6. 連結キャッシュ・フロー

# 1. 2009年3月期 連結決算

	08/3期		09/3期			
	金額	売上高比	金額	売上高比	修正予想比	前年度比
売上高	56,861	100.0	52,550	100.0	▲4.5	▲7.6
うち海外売上高	8,419	14.8	8,392	16.0	—	▲0.3
売上総利益	3,474	6.1	3,148	6.0	—	▲9.4
営業利益	1,089	1.8	893	1.7	▲0.8	▲18.0
経常利益	943	1.6	809	1.5	+1.1	▲14.2
当期純利益	704	1.5	489	0.9	+7.5	▲30.5

## 売上高

前年度比▲7.6%、修予比▲4.5%

- 下期の主要需要先の減速  
自動車、家電電子、事務OA機器  
が減少、医療関連は堅調
- 海外は上期の好調を受け、通期では微減に止まる

## 売上総利益

前年度比▲9.4%

- 減収に伴う減益。利益率の高い子会社の決算期変更(11ヶ月)等により利益率低下。

## 営業利益

前年度比▲18.0%、修予比▲0.8%

- 減収により前年度比でマイナス

## 当期純利益

前年度比▲30.5%、修予比+7.5%

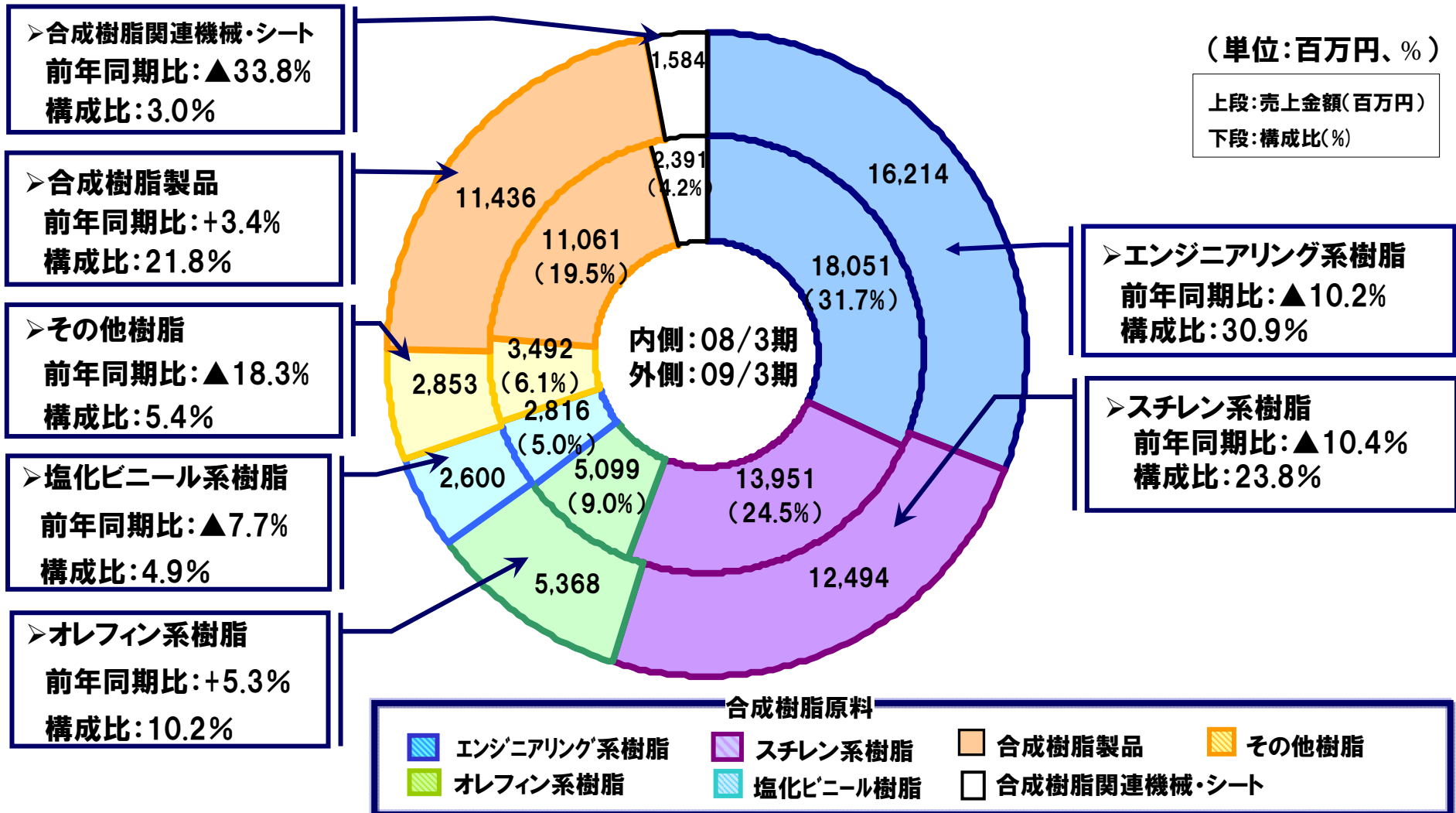
- 減収により前年度比でマイナスも貸倒損失等を抑え修予比では増益に

※平成21年1月28日に業績予想の修正を行っております。

※年間配当16.00円を予定。

## 2. 取扱商材別連結売上高増減

売上高は前年度期比7.6%減







### 3. 販売先業界別売上高構成比

主な販売先の減速が鮮明になるも、医療器、玩具は堅調を維持

当社の取扱商材(合成樹脂)	主な製品
<b>スチレン系</b> ➢ ポリスチレン ➢ ABS樹脂	➢ 家庭電器製品 (テレビ、エアコン、冷蔵庫等) ➢ 事務機器 (パソコン及び周辺機器、FAX等) ➢ 玩具等
<b>オレフィン系</b> ➢ ポリエチレン ➢ ポリプロピレン	➢ 家庭電器製品 ➢ 医療器具(注射器具等) ➢ 自動車部品(ハンドル、内装部品)
<b>エンジニアリング系</b> ➢ ポリアミド樹脂 ➢ ポリアセタール ➢ ポリカーボネート	➢ 光学機器(カメラ等) ➢ 精密部品(ファスナー、ギア等) ➢ 医療用具 ➢ 電子部品(コントローラー等)
<b>塩化ビニール系</b> ➢ 塩化ビニール樹脂	➢ 建材業界 (床材、壁紙)
<b>その他</b> ➢ 上記に属さないPET、MMA、エラストマー樹脂等	➢ 飲料ボトル ➢ 自動車部品 ➢ 玩具

【当社の主な販売先動向(単体)】

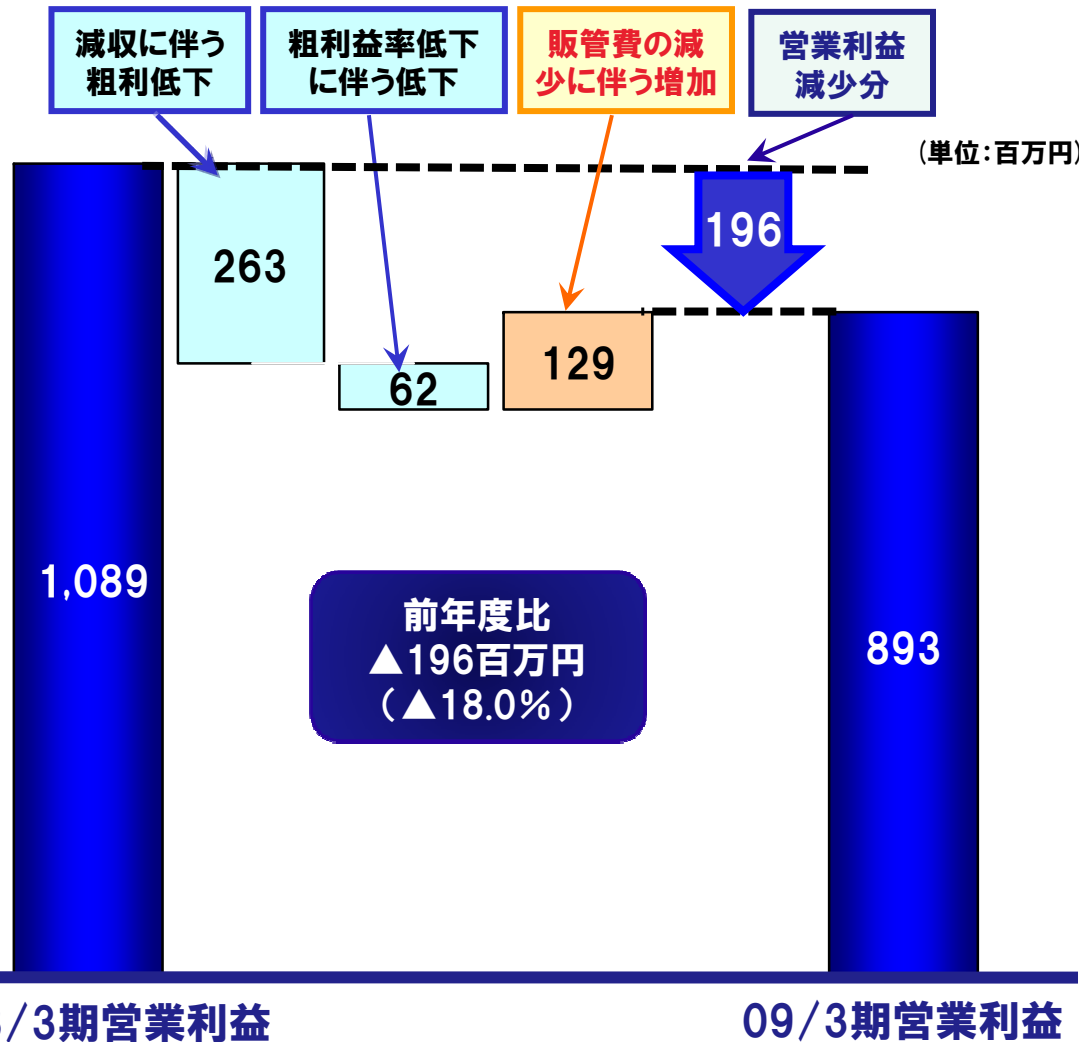
	ウェイト	トレンド
OA・事務機器	36%程度	
家電・電子	17%程度	
自動車	6%程度	
医療器	7%程度	
建材	10%程度	
容器・化粧品	3%程度	
玩具・その他	21%程度	

 +10%~  
 +5%~+10%  
 ▲5%~+5%  
 ▲5%~

\*販売先業界別売上高構成比は、単体ベースで売上高上位100社の構成比及びトレンド記載。

## 4. 連結営業利益の変動要因

### 売上高の増加に伴う減益



### 営業利益の増減要因

#### ◆減収分 (▲263百万円)

- 下期主要需要先の減速

#### ◆粗利益率低下(▲62百万円)

- 高利益率の子会社の決算期変更 (11ヶ月)を含めた粗利益率低下

#### ◆販管費減少(▲129百万円)

- コスト削減努力

営業力の強化により更なる成長を目指す

# 5. 連結貸借対照表

自己資本比率 09/3期末 29.2% (08/3期末23.4%)

(単位:百万円、%)

	08/3期末		09/3期末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	21,015	89.8	16,017	88.2	▲4,998
現金及び預金	1,783	7.6	2,393	13.2	610
売上債権	17,925	76.6	12,544	69.1	▲5,381
たな卸資産	986	4.2	749	4.1	▲237
固定資産	2,387	10.2	2,146	11.8	▲241
投資その他の資産	1,798	7.7	1,372	7.6	▲426
資産合計	23,402	100.0	18,164	100.0	▲5,238
流動負債	17,284	73.9	11,679	64.3	▲5,605
買掛債務	13,816	59.0	8,732	48.1	▲5,084
短期借入金	2,878	12.3	2,575	14.2	▲303
未払法人税等	324	1.4	45	0.2	▲279
固定負債	613	2.6	1,138	6.3	525
長期借入金	126	0.5	549	3.0	423
負債合計	17,898	76.5	12,818	70.6	▲5,080
純資産	5,504	19.7	5,346	29.4	▲158
株主資本	5,077	21.7	5,392	29.7	315
負債・純資産合計	23,402	100.0	18,164	100.0	▲5,238

## 連結B/Sの増減要因

減収に伴う売上債権の減少、及び債権管理の強化

保有投資有価証券の洗い替えに伴う減少

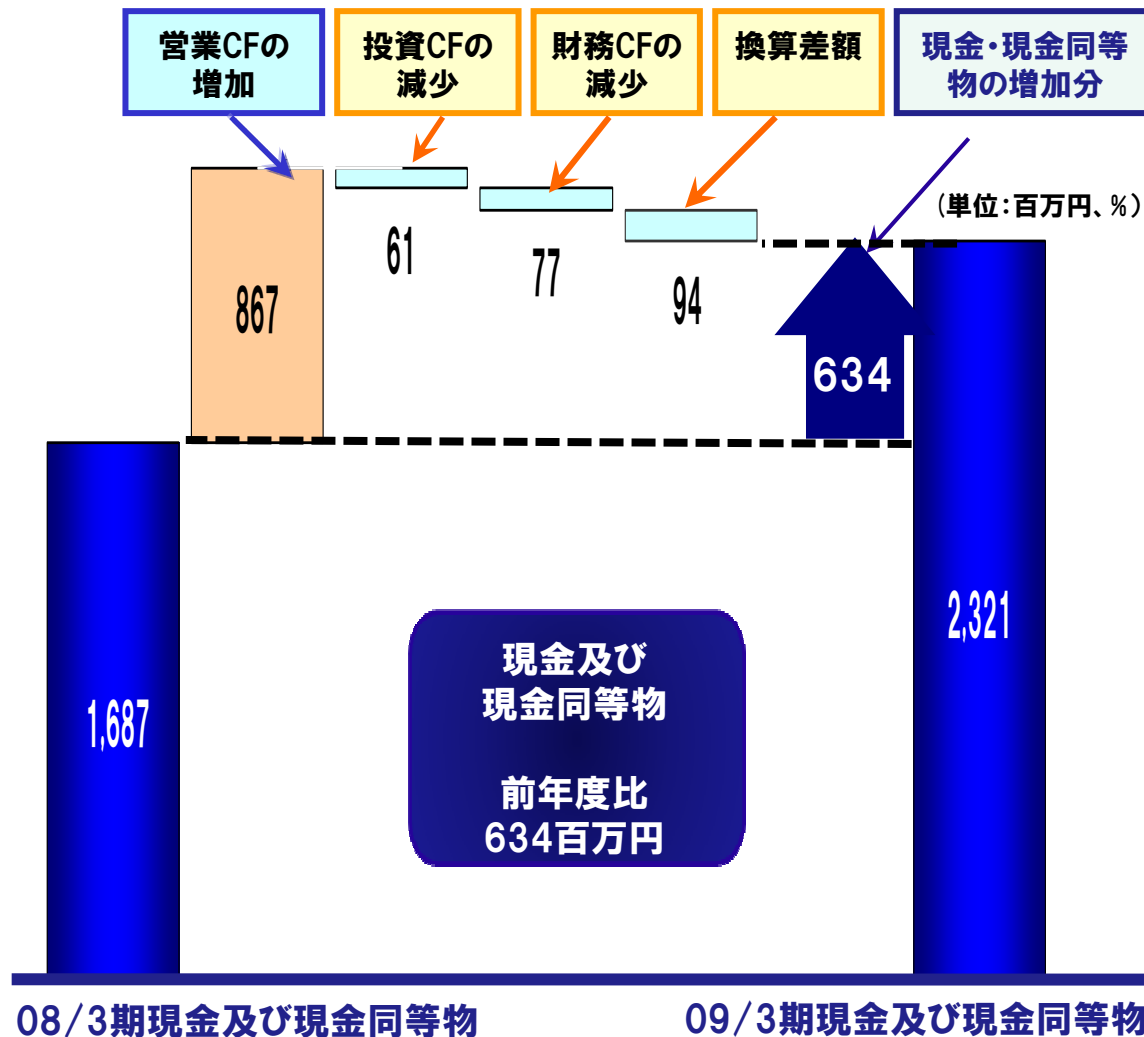
減収に伴う買掛債務の減少

短期借入金を長期借入金への振り替え

利益剰余金の増加(+3.1億円)に伴う増加

## 6. 連結キャッシュ・フロー

着実に営業CFを積み上げ、FCFの拡大により安全性の向上を図る



### FCFの増減要因

(百万円:M(Million)と表記)

#### ◆営業CF (+867百万円)

- 税引前当期純利益(+801M)
- 為替差損益(+31M)
- 投資有価証券差損(+7M)

#### ◆投資CF(▲61百万円)

- 投資有価証券の取得及び売却  
(取得▲91M、売却+21M)

#### ◆財務CF(▲77百万円)

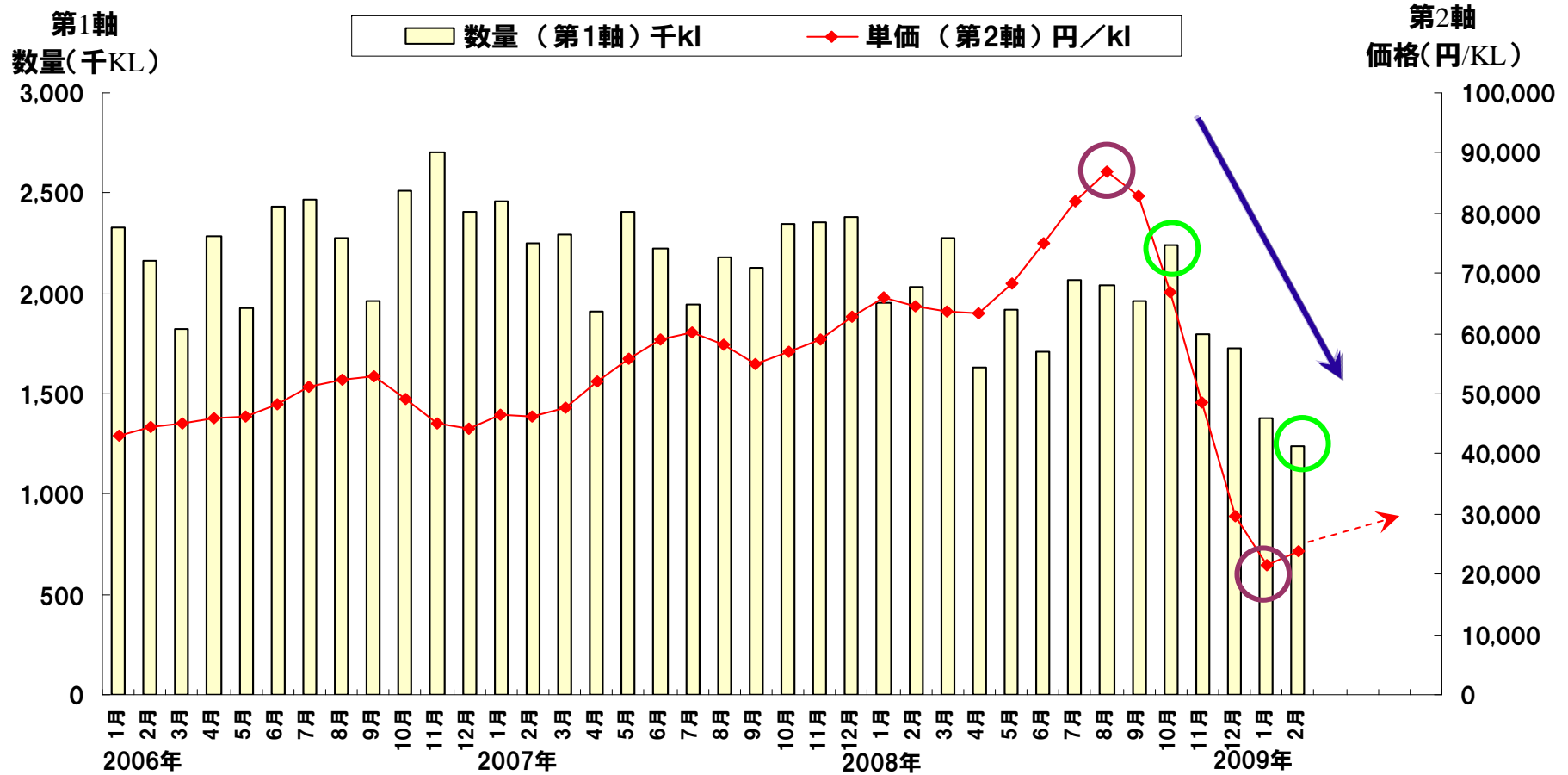
- 長期借入金借入(+610M)
- 長期借入金の返済(▲416M)
- 社債償還(▲100M)
- 配当支払(▲176M)

## II. 市場動向

7. ナフサの価格・数量動向
8. 国内合成樹脂数量動向
9. 先行指標WTI(期近物)動向

# 7. ナフサの価格・数量動向

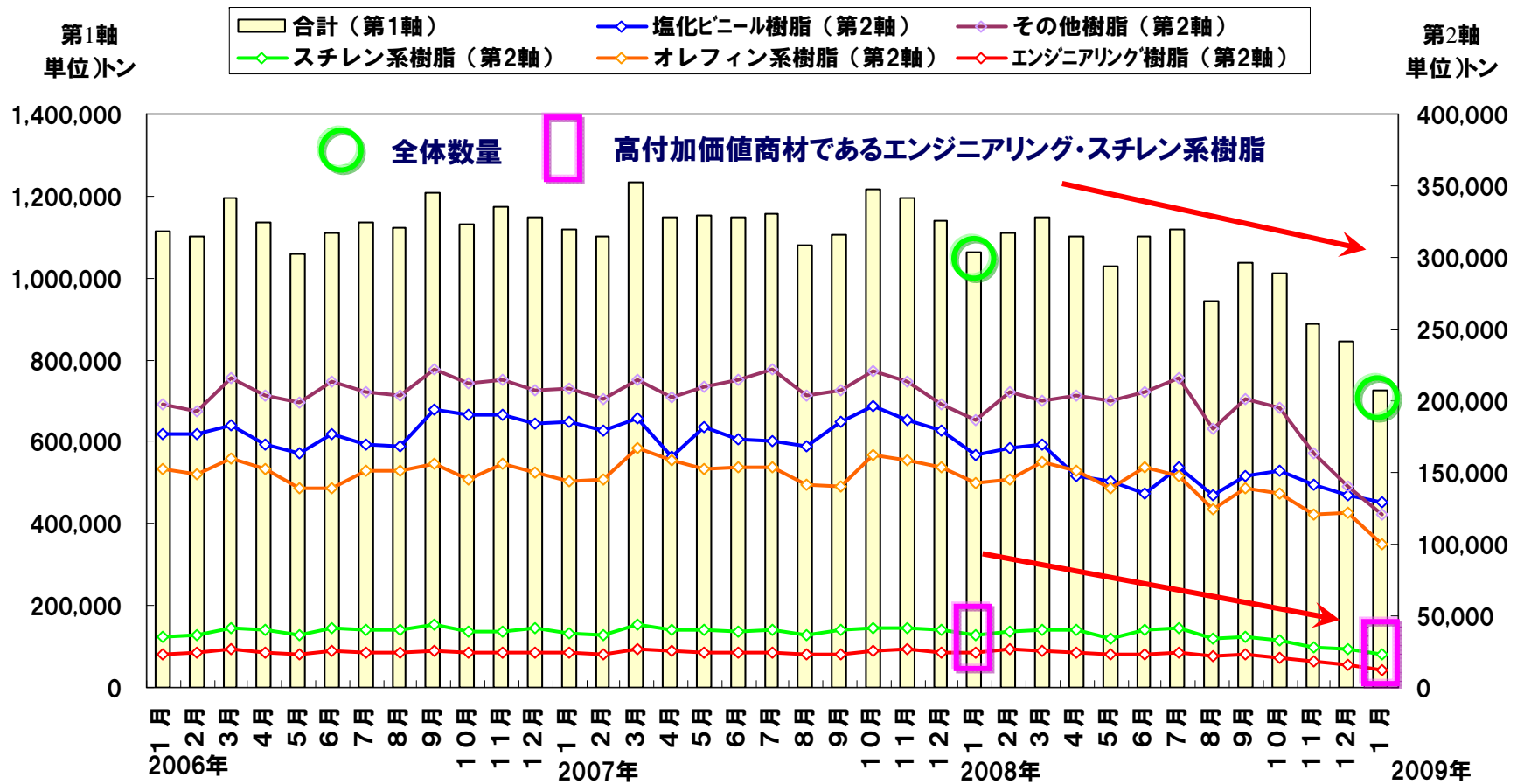
- ・ ナフサ価格は、2008年8月を境に、数量も2008年10月を境に、急落。
- ・ 2009年2月では、対前年度比で、数量は約4割減少、価格は約6割低下。



出典)財務省「貿易統計」2009年2月は速報値。

# 8. 国内合成樹脂販売数量動向

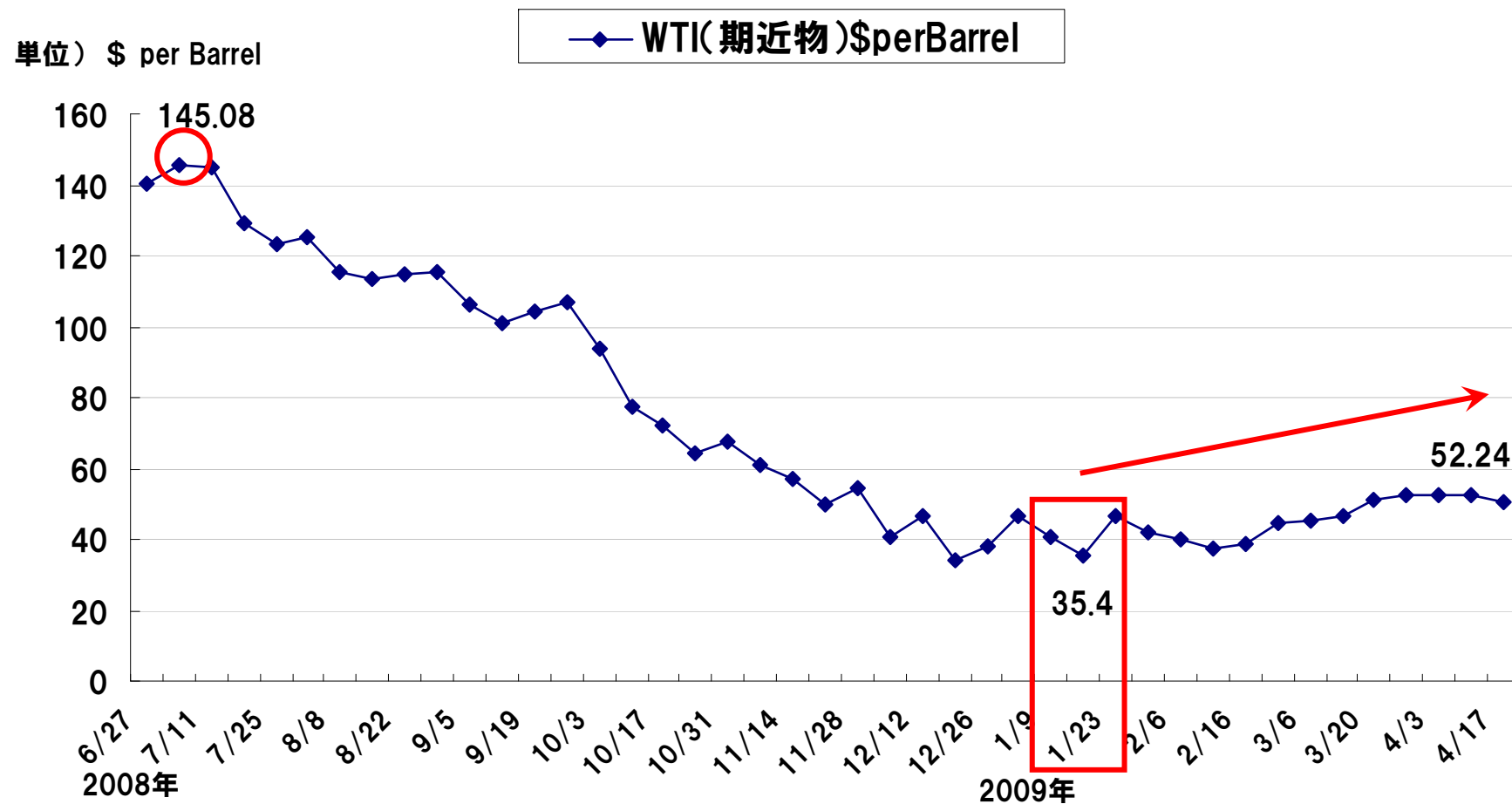
- 国内合成樹脂販売数量動向 2009年1月実績（対2008年1月比）
  - 全体で約3割程度の減少。
  - 高付加価値商材であるエンジニアリング樹脂は5割弱の減少、スチレン系樹脂4割弱の減少。



出典)経済産業省「化学工業統計」

## 9. 先行指標WTI(期近物)動向

- ナフサ価格の先行指標となるWTI(期近物)の価格は、2009年1月(35\$/バレル)を底に、4月には、対1月比47.5%アップの50\$/バレル前後まで回復。



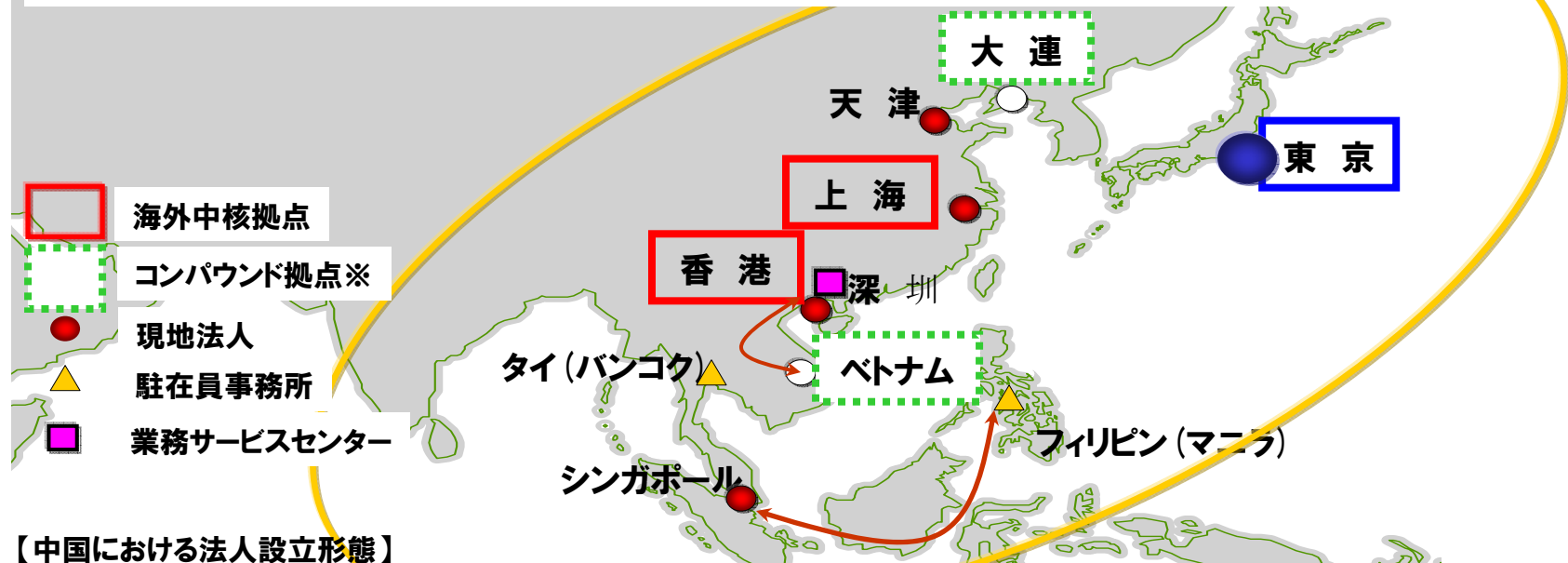
### III. 金融危機時の経営戦略

10. 今後の経営ビジョン
11. 今後の海外拠点動向
12. 当社のコア・コンピタンス
13. 金融危機時の経営戦略
14. 利益確保のための施策
15. 経営マネジメントの徹底

# 10. 当社の戦略ビジョン

**合成樹脂の素材専門商社として、グローバル・プレーヤーとしての橋頭堡を築く**

- ▶ アジア進出を進める日系企業、現地下請け法人への供給体制の充実
- ▶ 中国市場での販路拡大に向け、**深圳業務サービスセンター**を2009年1月に設立



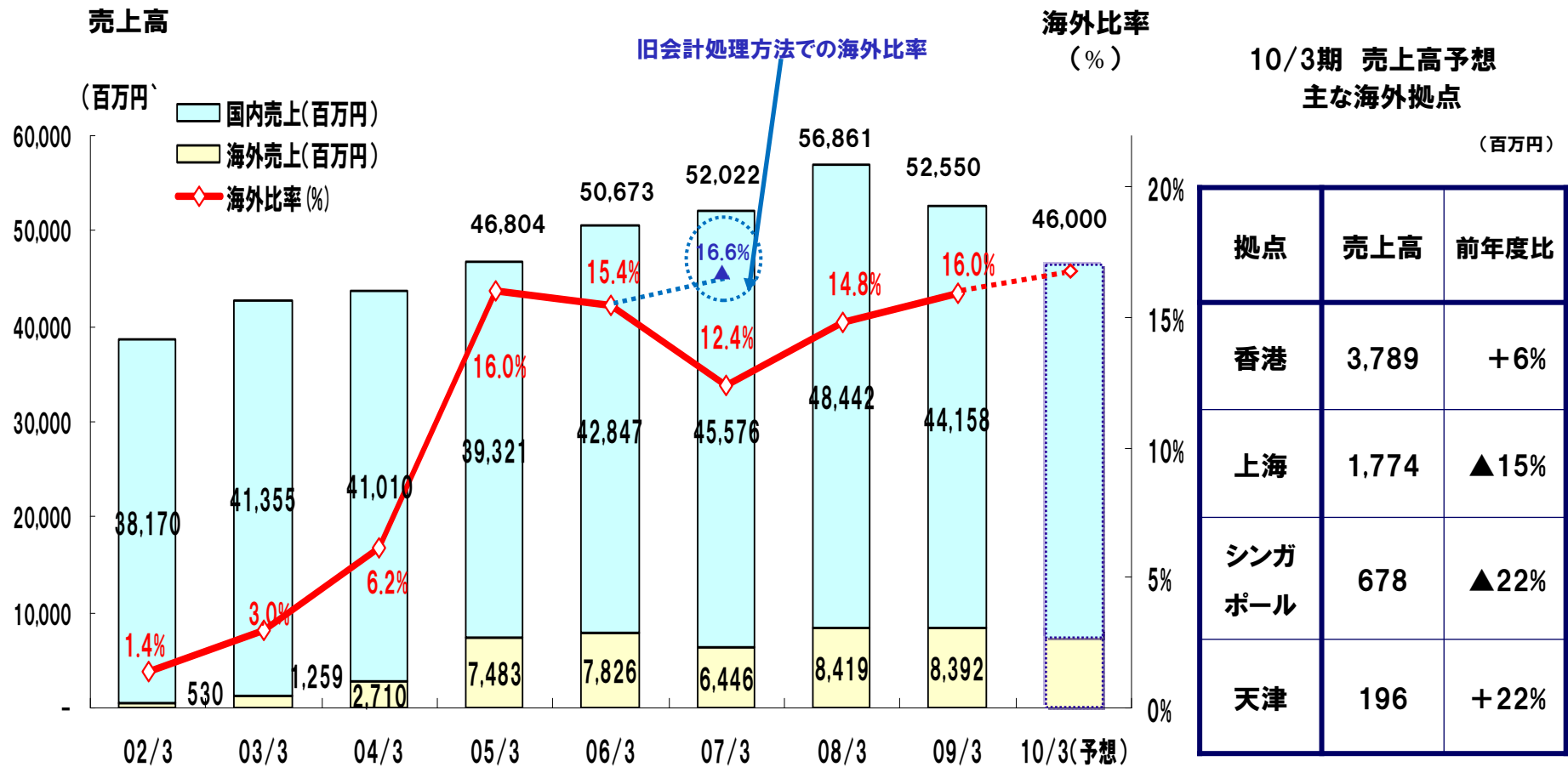
【中国における法人設立形態】

設立形態	駐在員事務所	サービス会社	8号令販社
営業活動	不可	可	可
経営範囲	業務連絡	経済情報、技術コンサルティング業務、マーケティング企画	商品の輸出入及び卸売り、関連サービスの提供
商品販売活動	不可	不可	可
最低資本金	無	外貨融資：10万RMB	外貨融資100万RMB

\*コンパウンド拠点：目的とする性能や機能を得るために、プラスチックのベース樹脂に強化材や添加剤を配合した材料を製造する拠点

# 11. 今後の海外拠点動向

**ベトナムと香港の拠点連携を強化し、日系企業下請法人への営業強化**

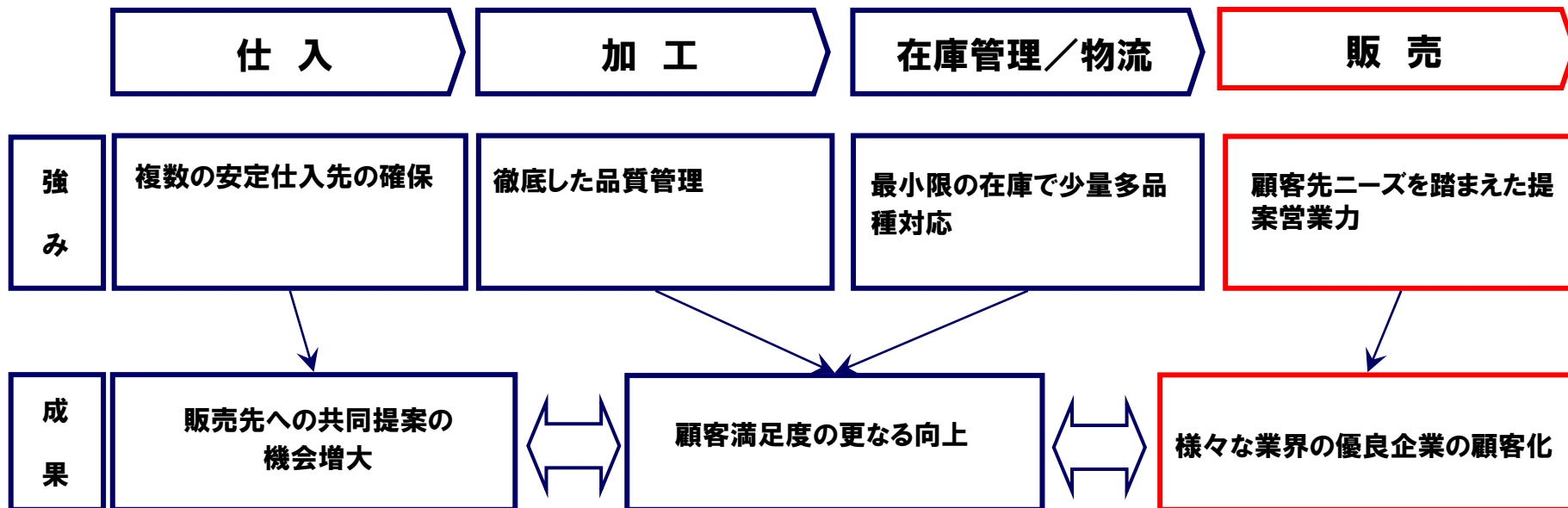


※海外売上には、海外拠点の売上高に加え、日本からの海外向け売上高も含まれております。

# 12. 当社のコア・コンピタンス

## 提案営業力を核とした商社機能に徹底

顧客満足度を高めるための品質管理 (顧客満足度を自律的に高めるための仕組みの導入)



# 13. 金融危機時の経営戦略

## 現状を緊急事態と認識し、金融危機を乗り切るための経営戦略を策定

### 当社の基本的な特徴

- 当社のビジネス・モデルは、顧客の業績に左右されるやすい構造となっている
- 当社の顧客は、国内優良企業が中心となっている

### 現状認識

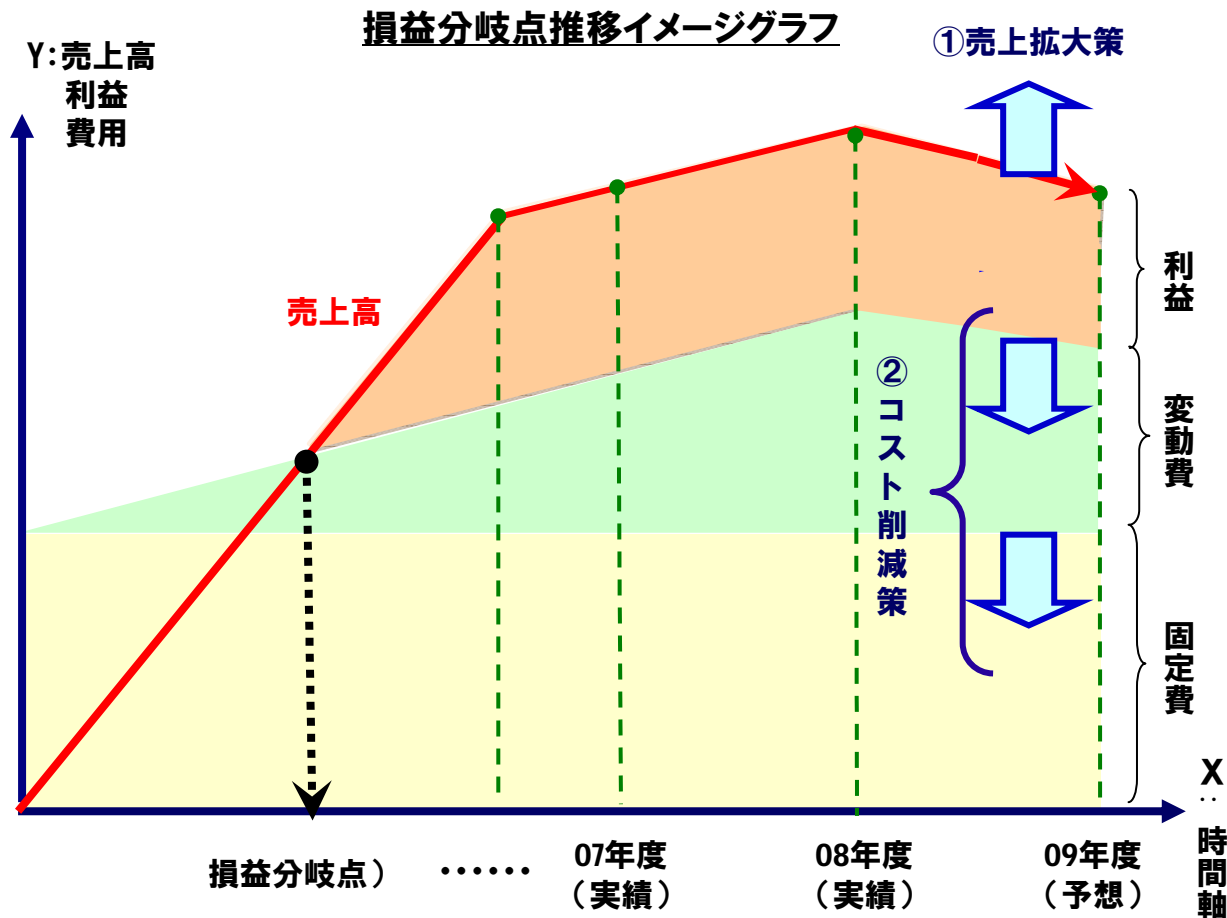
- 平時には、安全性の高い事業と言えるが、現在は、金融危機を契機とする、日本の外需企業全体を襲った未曾有の景気減退の最中にある

### 金融危機時の経営戦略

- 「金融危機時の経営戦略」の骨子は、以下の通り
  - ① 新規商い作りを積極的に行い、減収減益をカバーする。
  - ② 会社創立以来続けてきた「本業」以外には、手を出さないという大原則を厳守し、債権の焦げつき等による損失発生を防ぐ。

# 14. 利益確保のための施策

金融危機時の戦略として、あらゆる案件の新規案件の獲得、及びコスト削減に注力



## 金融危機への対応策

### ①売上拡大策

- ・有事の戦略として、利益を出すために、高付加価値商材だけでなく、あらゆる案件の新規獲得に注力

### ②コスト削減

- ・全社的なコスト削減を進める

# 15. 経営マネジメントの徹底

## 損失を出さない経営マネジメントの徹底

### 損失発生リスク

1. 貸倒損失

2. 在庫評価損

### 左記リスクへの対応

⇒ 債権管理の徹底  
09/3期実績: 3百万円

⇒ 顧客ニーズの把握の徹底を通した、在庫の最小化

## IV. 2010年3月期 通期連結予想

16. 2010年3月期 通期連結業績予想

17. 経営指標

18. 2009年度の経営戦略まとめ

# 16. 2010年3月期連結業績予想

## 1. 売上高

数量の拡大に向けた取り組みにより、減収幅をできる限り縮小する

## 2. 営業利益

コストの削減等により、減益幅の縮小を図る

(単位:百万円、%)

	09/3期 (実績)		10/9期 (上期予想)		10/3期 (下期予想)		10/3期 (通期予想)	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比
売上高	52,550	100.0	22,000	100.0	24,000	100.0	46,000	100.0
営業利益	893	1.7	180	0.8	295	1.2	475	1.0
経常利益	809	1.5	165	0.8	270	1.1	435	0.9
当期純利益	489	0.9	100	0.5	160	0.7	260	0.6
一株当たり 当期純利益	57.31	—	11.70	—	18.71	—	30.41	—

(注) 2009/3月 発行済み株式数: 8,550,000株

配当予定(連結): 第2四半期配当 5.00円 年間配当 10.00円

# 17. 経営指標

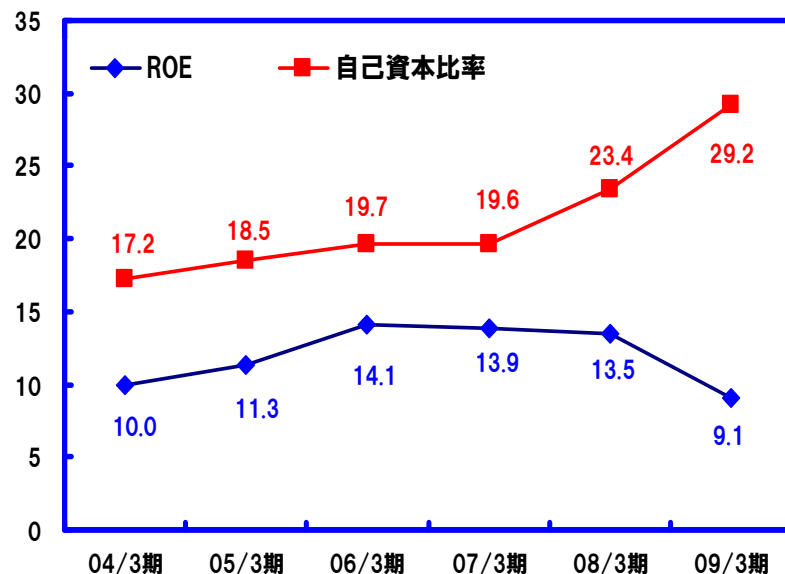
**1. ROE 15.0%以上 (08/3期: 13.5%、 09/3期: 9.1%)**

ROEの低下要因は、総資産回転率は改善したもの(+0.1p)、当期純利益率の低下(▲0.3p)、財務レバレッジの低下(▲0.9p)により、09/3期のROEは4.4p低下。

**2.自己資本比率 35.0%以上 (08/3期: 23.4% ⇒ 09/3期: 29.2%)**


安全性を高めつつ、景気回復時に備えた手元資金の拡充。

## 【当社ROEと自己資本比率の推移】



	04/3	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3
ROE (%)	10.0	11.3	14.1	13.9	13.5	9.1
当期純利益率 (%)	0.7	0.9	1.1	1.3	1.2	0.9
総資産回転率 (回)	2.2	2.3	2.4	2.2	2.3	2.5
財務レバレッジ (倍)	5.8	5.4	5.1	5.1	4.3	3.4
自己資本比率 (%)	17.2	18.5	19.7	19.6	23.4	29.2

## 18. 2009年度の経営戦略まとめ

<p>景気動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融危機により、世界的な需要低迷</li> </ul>
<p>為替動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円高ドル安傾向継続(1\$=96円) 2009年6月3日現在</li> </ul>
<p>市場動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009年2月のプラスチック原材料の販売実績は、低水準。</li> <li>・ 先行指標であるWTIでは、2009年1月を底に、1バレル35\$から50\$前後にまで回復</li> <li>・ 当面は、在庫調整は進みつつあるものの、大幅な需要回復は見込めない状況。</li> </ul>
	
<p>経営施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高付加価値商材ばかりでなく、様々な案件の新規獲得に注力</li> <li>・ 全社的なコスト削減に尽力</li> <li>・ 当面は積極的な投資は行わず、景気回復時に海外での投資を計画</li> <li>・ 与信管理の更なる厳格化</li> <li>・ その他減益要因の低下(貸倒損失、在庫評価損の発生防止)</li> </ul>
<p>株主還元</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10/3期予想EPS 30.41円 1株当たり配当金予想 年間10.00円 (ご参考 09/3期: 実績EPS 57.31円、年間配当16.00円)</li> </ul>

＜お問い合わせ先＞

プラマテルズ 株式会社

経営企画部 部長 山本 倫寛

電話 : 03 - 5789-9700

FAX : 03 - 5789-1690

本資料には当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略など将来に関連する記述が含まれております。これらの将来に関する記述については、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社業績または展開に対し確約や保証を与えるものではありません。ご利用に際しましては、予想と異なる結果になる可能性がある点にご留意されますようお願い申し上げます。